



開放感あふれる風景のヴィクターハーバー



走路上をパドックがわりにする
ハンギングロック



ダートでもターフクラブ、
ダーウィンのレース風景

世界旅打ち氣分

●第24回・須田が最近行ったオーストラリアの競馬場

須田鷹雄

写真のカラー版は
<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>
の
#グリーンファーム会報#2020年4月号
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

行くときの移動距離としては短い、近いというイメージになる。ただ、場所は山の中という感じで、最後のはうは十一カリの生い茂る山道を行く。競馬場の内馬場にもユーカリがあり、抜けた先に見えるのは山ばかりだ。

開催は元日と、オーストラリアデー（建国記念日）に相当・1月26日）。オーストラリアのカントリー競馬（主要競走を行うメトロ開催）に対して、小さく下級条件の比率が高い開催）は年に1日のカップデーというのが大いに盛り上がるのだが、これは年に2日しかないのでも2日とも盛り上がる。

競馬場として特徴があるのは、パドック（マウンティングヤード）が無いことだ。出走馬はゴール版附近に集合し、しばらくそぞろぐるぐる回る。やがて騎手が乗り、返し馬に移っていく。

タイの地方競馬が同じような形で馬見せをするが、オーストラリアでは珍しい形態になる。日本でいえば内馬場にパドックがある笠松競馬のようなものか。

この競馬場に行くときは敷物を持つていいたい。現地の1月といえば夏。雨にさえ降られなければ芝生にシートを敷いてピクニック

最後にこの紹介するのはヴィクトルニアリーア州の州都・アデレードから南へ90キロほど行ったところにある。その名の通り、海に面した街である。

ヴィクトルニアーバーには、重種の馬が曳く觀光馬車がある。グリーンチャンネルで紹介したのでご覧になつた方もいるかも知れない。この觀光馬車もかなりおすすめ。海の中を通る道を馬車で進み、島に渡る。日本には無い景色を馬と共に見るのは貴重な経験だ。

この馬車のほかにヴィクトルニアーバーには觀光SLもあり、觀光地として賑わっている。競馬開催日（そう多くないが）は早めにアデレードを出て午前中に馬車やSLをして楽しみ、午後イチで競馬場に出なければよいのではないだろうか。

競馬場は海沿いではなく、山側に車で5分ほど行ったところにある。スタンドは、これをスタンドと読んでよいのか憚れるほどシンプルで、平屋というか細長い「ノンテナ状のもの。上から走路を見下すよ

うな席はなく、全員がグラウンドレベルでレースを観戦することになりながら古い時代のままのかと思つたら、現競馬場は2006年と実は新しい時期のオープンだった。ただ競馬の歴史が浅いわけではなく、移転してきたようだ。建物の中には昔のレース写真や口取り写真を展示しているコーナーがあるのだが、その中には1948年という写真もあった。

このヴィクトーハーバーは、山の景色が好きな方におすすめの開放感あふれる競馬場だ。ハーネス（繫駕競走）の競馬場は周長の短いものが多く、都會にある競馬場だとコンパクトな感じで競走をしていることもある。それに対しても、空が広いし、向こう正面には山で暮らす人々のナチュラルライフが目に入る。

この競馬場に来て天気が雨模様なんになるとがつかりだが、晴れればとにかく爽やか。我々がオーストラリアに求める風景が見られる。開催数はあって月に1回というところだが、開催力レンダーから狙つて訪ねてみたい競馬場である。

いま、世界は「コナウイルスの脅威」と戦っている。国境を超えた移動は制限され、鎖国に近い政策をとっている国もある。オーストラリアなどは国際航空便も止まる予定で、国内の移動も制限されている。ヴィクトリア州では一部の騎手が自主隔離に入り、感染しない状況を担保したうえで競馬に参加するというプランを実施している。

次いつ訪問できるか分からない存在になってしまったオーストラリアだが、筆者は実はこの1月から2月にかけて、長期オーストラリアへ渡航していた。6週間ほどいて、そのほとんどは各都市でマンションの一室を借りて自炊などしていたのだが、なかなか良い経験だった。

もちろん主目的は競馬観戦で、まだ行ったことのない競馬場を中心に行き回った。28場うち未踏破場21場を訪れた。片道2~3時間という移動はザラで、カントリー競馬の騎手のような移動をする感じだった。

オーストラリアの競馬場については既に何回か紹介しているが、どれだけ紹介したことで尽きるではない。平地競走・繫駕競走

を合わせると全土で500の競馬場があり、オーストラリア人が生涯をかけて挑んだといひで、すべて踏破できるようなものではないのだ。

今回は訪問したばかりの競馬場の中から、おそらくよほどマニアがよほど決意しないと行く機会のない競馬場を3つほど紹介しよう。

人気しかない。そのぶんゆつたりのんびり競馬を楽しむことができるのである。

レースも単調な展開が多いが、リーディング上位騎手を頼りにシングルな単勝を買っていればそれなりに楽しめる。

ダーウィンは州都なので国際線もあり、日本からもアプローチしやすい。今回紹介する3場の中で行きやすいほうだろう。ただ連続した日程で別な競馬場にも行きたいなど思った場合、「次に開催がある競馬場」が1500キロ先のアリススプリングスだつたりする。現実的にはダーウィン1場だけの訪問になってしまって、効率が悪いといふ点で難易度は高い。

2場めはヴィクトリア州のハングギングロック競馬場だ。この競馬場は年に2日しか開催がない。う書くと驚かれるだろうが、オーストラリアには年に1日しか開催のない競馬場もあるのである。年2日というのは、確かに少ないものではあるが常識外というわけではない。

ハンギングロック競馬場はマルボルン・タラマリン空港から北北西に55キロ。車で1時間しないくらいだ。オーストラリアの競馬場に